

令和7年度 第2回福井市行政改革推進委員会 会議結果

- 1 開催日時 令和7年11月5日(水) 15:45~17:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第1委員会室
- 3 出席者
- (1) 委員 三寺 潤 委員長、田村 洋子 副委員長、井上 武史 委員(リモート出席)
景山 直恵 委員(リモート出席)、春日野 道治 委員、真田 悦子 委員、竹川 充 委員
前田 聡一郎 委員、宮下 麻衣子 委員、山崎 栄一 委員
- (2) 事務局 総合政策課、広報プロモーション課、職員課、行政DX推進課、ふるさと納税推進室
施設活用推進課、市民課、市民サービス推進課、財政課

4 会議次第

- 1 開会
- 2 議事
- (1) 令和7年度 第1回持続可能な財政運営専門部会の会議結果について〔報告〕
- (2) 「第九次 福井市総合計画」の原案について〔協議〕
- (3) その他
- 3 閉会

5 議事の概要

委員長	<p>(1) 令和7年度 第1回持続可能な財政運営専門部会の会議結果について〔報告〕</p> <p>本委員会に先立ち開催された持続可能な財政運営専門部会について報告する。</p> <p>事務局から資料1に基づき、令和6年度の決算状況及び施設マネジメントアクションプランの進捗について報告があった。</p> <p>まず、福井市の財政の貯金になる財政調整基金の残高について、目標としては50億円を目指そうと、着実に増加している状況だが、令和6年度は少し貯金額が少なかったということで、利子分のみが積立ができたという状況になっていた。その背景には、人件費や扶助費の増加が大きく影響し、積立金が少なかったということであった。</p> <p>こちらに関して、委員からは、「この先が少し心配だ。その部分もしっかり見極めながら、財政運営を進めてほしい。」というコメントがあった。</p> <p>続いて、金利上昇の件で、「今後の状況を見越した上での財政運営になっているか、計画になっているか。」というコメントがあった。こちらに関しては、既に借りている分は、固定金利になっており、10年で見直しを行うということで、「見直しのタイミングには、ぜひこの金利上昇というところをうまく分析をしながら、財政運営を進めていただきたい。」というコメントがあった。</p> <p>財政全体に関することについては、国の動向が非常に重要になってくるということで、プライマリーバランスもそこに大きく影響してくるんじゃないかということで、「動向を見ながら、きちんと働きかけを積極的に行っていただきたい。」というコメントがあった。</p> <p>そして、施設マネジメントは、「アクションプランに従って進めている状況で、解体は順調に進んでいるということだが、まちなかにそういった空き家が増えると、非常に不安だ。」というコ</p>
-----	---

	<p>メントがあった。こちらに関しては、「将来、行政的に使うような利用が考えられるものを上手く判断しながら進めていきたいということだが、その状況はどうあるべきかをしっかり考え、財政運営、そして、アクションプランを進めていただきたい。」というコメントがあった。</p> <p>最後に、アリーナについて、「どういったスキームで、今後お金を考えているのか。」というコメントがあった。細かくこの先というところは、不安定ではあるが、額がおおよそ決まったところであった。一般会計で、財政を見ていくということなので、こちらに関しては「健全な財政運営のあり方のスキームを検討しながら進めていただきたい。」というコメントがあった。</p> <p>私からは、6つの取組で進めているものの1つである、働き方改革に関し、総時間数というところで1人当たりの時間数が気になったのだが、推移を見ていくと令和3年から少しずつ上がっており、今回は下がっているということで、適切で効率的な行政の中の組織づくりなど様々な取組が功を奏したのではないかとということで、今後、見込みとしてはもう少し減っていく予定だという報告があった。</p> <p>ご質問は無いようなので次の議題に進む。</p>
委員長	<p>(2)「第九次 福井市総合計画」の原案について〔協議〕</p> <p>それでは、(2)「第九次 福井市総合計画」の原案について事務局から説明を。</p>
総合政策課長	<p>【資料2に基づき説明】</p>
委員長	<p>資料11ページについて皆さんからご意見をいただくという形で進めさせていただきたい。</p> <p>総合計画の策定だが、いよいよ後半戦の山場になってきているという状況で、委員の中でも4名が、審議会の委員として参画をいただいている。5ページにあるように、4つの部会があるが、「総合計画を推進するために」という部分については、この委員会にて皆様から積極的なご意見いただきたい。</p> <p>こちらについて何かご質問、コメントある方はお願いします。</p> <p>私から、この「チャレンジする行政運営」という言葉は、目標としては非常に良く、全体の大きな目標とも合っているということ、新しい行政のあり方を示す意味でも、非常に良いキーワードだと思っている。質問だが、「持続可能な行政運営」にある、「SDGsの取組を「見える化」することで、市民のSDGsに対する理解と取組を促進します」とあるが、他の括りの中で「SDGs」という文言が今のところ見えないような気がする。あえてこれを入れることについて理由をお聞かせいただきたい。</p>
総合政策課長	<p>「第八次福井市総合計画」の中でも、この文言は入っており、すべての事業について、SDGsのマークを入れながら進めているところである。また、福井市としても、SDGsをしっかり進めるために様々なイベント等を開催しており、市民にもしっかり伝えていきたいということでこちらを入れている。</p>
委員長	<p>2030年为目标になっていたかと思う。ちょうど「第九次総合計画」が動いてちょうど中盤ぐらいにチェックが入ってくるので、入れたいということで理解した。</p>
委員	<p>「チャレンジする行政運営」ということで、私も民間の立場で、行政の方達と仕事をご一緒することが多いが、最も気になるのが意思決定のスピードだったりする。極端に言うと、2日で作る結論が3ヶ月かかったりする。このあたりは、年度の予算でいろいろ考える必要があるなど、制度上仕方がないところもあると思うが、年間でプロジェクトを運用する上で、ある程度意思決定の変更が効くような進め方など柔軟性があるところを担保していただけると民間と</p>

総合政策課長	<p>しては関わりやすいと思う。</p> <p>意思決定のスピードについては、最近では速くなってきたように感じている。意思決定をする人が誰かがわからず、上の方まで聞いたりして何ヶ月もかかったということもあるので、最終的な意思決定は市長になると思うが、市長の代わりに、例えば課長や係長など、誰が意思決定をできるかを明確にし、スピーディーに対応していきたいと考えている。こういう点で、人材の育成も大切だと思っている。</p>
委員 職員課長	<p>役割と権限の委譲が進んで、なおかつ横連携なども結構進んで来られたという感じか。</p> <p>意思決定については、「福井市職務権限規程」にて、どの程度の仕事は市長まで必要、こちらは課長が判断できるというように細かく決めている。その規程に基づき、決定をしているということになるが、毎年、規程内容の見直しを行う中で、これまでは部長決裁としていた内容を課長にするなど、柔軟に考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>「行政課題に迅速に」という、組織づくりと人材育成に関して、この20年程の福井市を見ていると、専門職が非常に少なくなっており、例えば、建設部で言うと、検査官が最低持っていないといけな資格を持ってない。都市計画であれば、法律に詳しい方がほとんどいないなど、私は、単なる人材育成だけで良いかどうか、専門職の育成が大事になってくるのではないかと思う。これから、そういった職員を人材として育てていく、踏み込んだ方針が必要だと思うとともに、そのことが、先進的な取り組みになっていくのではないかと思う。</p>
職員課長	<p>人材育成については、「人材育成基本方針」を定めて、全体の人材育成に取り組んでいる。委員がおっしゃったように、技術職や専門職の人材育成や確保には苦労しているところで、なかなか応募をしていただけないということで、蓄積されたノウハウをどのように継承していくかはひとつの課題だと思っている。</p> <p>人員確保について言うと、近年、ある程度技術を持った方などの中途採用を少し強化し、一定の技術を持った方の採用なども行っている。ただし、独自で育成することは非常に重要である。</p>
委員 委員長	<p>特に、技術でいうと、技術管理課という専門の部署があるが、技術だけでなく、今までのノウハウは、適材適所の人員配置も考え、他の先進的な自治体の仕組みなどを参考にしながら進めていきたいと思っている。</p> <p>書きぶりについてはどうか。</p> <p>もう少し踏み込んだ書きこみにしてほしいということだと思うので、検討をしていただきたいと思う。例えば、就職した後に資格を取れるような支援があるのかも非常に重要になってくると思う。</p>
職員課長	<p>私だったら、建築士や技術士などは、どの程度取得しているのか。取得を支援する仕組みはどうなっているのかを知りたい。わかる範囲で、どうなっているのか。</p> <p>建築士・技術士については、もともと資格を持っている方の採用もあるところだが、今数字は持ち得ていないが、入庁してからの努力で、多くの技術を持った方がいる。具体的に施策として、何かをしているかという、実際は、まだ個人と所属の協力といった形である。過去には資格の補助をしていたこともあるが、現状は無い。</p>
委員長 委員	<p>どのように文言に反映するかは、また検討をしていただきたいと思う。</p> <p>人材に関して、人って一生懸命やってきたとしても、辞めてしまうかもしれない。実装すべきなのは、人材はもちろんだが、人材が果たしている機能だと思う。長く勤めてくれる人材が担ってくれたらそれはそれでありがたいこと。それを担保するものとして、このワードが適切かどうかかわからないが、例えばBPOのようにビジネスのプロセスをアウトソーシングするなど、組</p>

<p>委員</p>	<p>織全体でどう最適化していくかが重要な角度かと思う。</p> <p>「チャレンジする行政運営」という文言は素敵だと思う。委員がおっしゃったように、専門職人材を内部で育成していくことはすごく大切だと思う。</p> <p>一方で、労働力不足、人口減少といったところで、本当に民間の採用が難しくなっており、どの企業も苦戦しながらやっている中で、福井市に魅力ある人材を集めてくるというのは、これから現実的ではないのかなといったところが率直な感想である。</p> <p>また、チャレンジするということは、それだけの余力が一人ひとりにはできない。働く時間を減らしていく中でチャレンジも求めていくとなると、やはり一人ひとりの負担はかなりのところだと想像できる。</p> <p>そうなった時に、市の内部で人材を確保し、増員していくというところは、これからの時代難しいのかなと思う。そこに対する具体的な策というところがどんなものがあるのかは検討していくべきかと思っている。それこそ、委員がおっしゃったような、外注であったり、副業人材であったり、部分的な業務委託であったり、福井市だけの人材育成というよりは、官民学を巻き込んだ福井市全体の人材育成を底上げするため、そこを福井市がリードしていくことを目指していかれると、すごく良い形で福井市全体が盛り上がっていくのではないかと考える。</p>
<p>職員課長</p>	<p>内部の人材活用については、昨年度から組織内に「20%ルール」という、自分の業務以外に得意なこと等に取り組める仕組みを設けた。先日の市長記者会見でも申し上げたが、これまで17チーム107名程度が、自分の業務以外の仕事に取り組んでいる。このように、人材の活用というか、得意分野の仕事にあたるような取り組みもしているため、そちらで人材の活用をしていきたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>もともと組織と人材は全然別の観点であって、組織は組織の構造みたいなどころの問題。特に、行政で昔から課題となっているいわゆる縦割り行政みたいなどころをどう乗り越えていくか、いわゆる横連携をどうやってうまくやっていくところや、あるいは、市の政策的に強化していくかなどを考える必要がある。その中で、「迅速かつ弾力的」という箇所がわかるようにわからない感じがする。</p> <p>もうひとつは、職業柄、人材育成をしている立場からして、人材育成の物差しが、昭和・平成の時代から変わってきているのではないかと最近思っている。以前の人材育成は、教育でスキルを上げる、能力を高めるというところであり、それはそれですごく重要なことだが、最近の伸びている企業をみると、そこで働く組織の人達、市であれば職員がいきいきと働いている、元気でなんでも言える、そういう企業が伸びたり、人が増えたりしている。</p> <p>「市民のウェルビーイング」について、課題に出ていたが、職員が朝、仕事に行く際に、今日も市民のために頑張ろうと思える「職員のウェルビーイング」につながるものがあつたら良いなどと思う。そのあたりはいかがか。</p>
<p>委員長</p>	<p>「職員のウェルビーイング」についての文言をここに書くかどうかは検討いただきたいと思うが、いかがか。</p>
<p>職員課長</p>	<p>委員がおっしゃったことの根底に、時代が変わってきているというようなこともあると思う。どのような表現にするかは考える必要があるが、働き方改革や新たに様々な提案制度があり、特に若い職員から、このように改善すると良いのではないかとというリクエストが総務部門などにあり、どんどん取り入れている印象もある。</p> <p>そういった意味では、働き方というか、自分が考えたことが実現することを実感できるように、先ほどの「20%ルール」や市長もよく申している「チャレンジみらい予算」といって、やりたいことを自らが提案して、それをするために「20%ルール」を活用することもできるよ</p>

<p>委員</p>	<p>になっているため、そういったことで働きやすさというか、やりがいのある職場づくりを今後も進めていきたいと思っている。</p> <p>おそらくアメリカの3Mという会社の「15%ルール」を取り上げたのだと思う。3Mでは、言い出した職員が全部責任を持って事業化しているようなので、そのあたりまでいけるかどうかも課題かなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、福井市の文化祭のゲストトークに参加してきた。「提案型勉強会」というサークル活動をしている職員達が、昨年から「福いいネ!アワード」をスタートしているようで、職員同士で、この課のこの事業やこの課のこの人が良かったねというように、人やことに対して職員が推薦し、勉強会の職員が推薦された職員を取材して、アワード形式で発表する文化祭の企画があった。様々な事業の裏話も聞くことができ、すごく面白かった。市民にも聞いていただくと良いのではないかと思った。</p> <p>企業とは違って、ある程度年数が経つと職員が異動する組織体制なので、褒められることをされない、という変だが、何をもって自分のモチベーションにされているのか疑問に思っていた。そのモチベーションを上げるためのアワードってすごく良いシステムだなと思った。その企画は、「20%ルール」の中で皆さん取り組んでおられた。</p>
<p>委員長 総合政策課長</p>	<p>そういったものを、もう少し外向けにさせていただけるとすごく良いのではないかと思った。</p> <p>外向けの発信について、現状どうなっているのか。</p> <p>外向きの発信はまだ考えていないが、現在、若手職員がいろいろ取り組んでいる。</p> <p>褒めるというコメントがあったが、どうしたらモチベーションを保てるのかを現在勉強している。他の中核市の状況も調べながら考えていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>非常に具体的な良い取り組みだと思う。ぜひ、具体的な事業の中で、何か見える化ができれば、私も参加したいなと聞いていて思った。</p>
<p>委員</p>	<p>「デジタル行政のさらなる推進」ということで、私は市外に住んでいるのだが、先日、住民証明書を取得する際に、オンラインで取得できるだろうなと思い探してみたが、実際は、市役所に行かないと取得できなかった。試しに、福井市で検索してみると、福井市は取得できるようなので、そういう面では進んでおり、他にも、わからないことがあってもチャットボットで答えていただけるなど先進的に取り組んでいると思う。私のように、他の市で働いている者にとっては、ほとんど市役所を利用することはない。そういう方には、全部デジタルで間に合い、市役所に行かなくても済むような仕組みをさらに推進していただくと良いと思う。</p> <p>職員はその空いた時間で、本当に困ってる方との対話に向けていただければ良いのかなと思う。</p> <p>もうひとつ、いずれの市町もそうだが、若者なり、まちの活力といったエナジーが衰退している。若者が帰ってくるまちになると良いなと思っている。出ていくことは仕方がないが、大卒後あるいは定年後でもいつでも良いが、福井市に戻ってくる機会が増えるようなまちになると良いと思う。そのきっかけは、やはりまちの魅力なり活力、そのひとつがアリーナかもしれないが、やはり自分の生まれたとこに帰るとやっぱり楽しい、元気に過ごせるっていうようなまちにしたいなと思う。もちろん老朽化したインフラの整備にお金をかけることも必要だが、それ以上に、税金を支払っていただく方が増えないことにはそういったことにもお金を回せないのので、若者が戻ってくれるような施策等をさらに増やしていただくとありがたいと思う。</p>
<p>行政DX推進課長</p>	<p>1つ目の質問で、デジタルを使った様々な行政サービスについていただいたが、資料11ページ②の1つ目に関わるところで、様々な行政手続きをオンラインで可能にすることを進めており、令和6年度末で56%まで進めている。これ、令和8年度末までに原則100%を目指す</p>

	<p>ということで、どうしても費用対効果が悪いものなどについては対象外としながら100%に向けて進めていきたいと考えている。</p> <p>また、AIやチャットボットもそうだと思うが、市民の質問にリアルタイムで答えるようなサービスを活用しながら、市民がより市役所に行かなくても良い「行かない窓口」というのを、積極的に進めるようにしていきたいと考えている。</p> <p>市民の方が自分の良いタイミングで、パソコンやスマホで手続きができる、または、コンビニに行けばマイナンバーカードを使って住民票が取得できるなど、様々なサービスを展開していきたいと考えている。</p>
<p>総合政策課長</p>	<p>総合計画をつくる上で、先ほどの説明にもあったが、若者ワークショップを開催し、グラフィックレコードを作成した。</p> <p>若者と話をしていると、福井市がこういうまちになって欲しいという想いがすごく強いことがわかった。また、総合計画を策定する委員の中にも若者の委員を入れさせていただいた。</p> <p>そういった委員の意見もしっかり反映させて総合計画をつくっている。</p> <p>総合計画をつくった後も、それで終わりではなく、しっかり若者の意見を聞きながらまちづくりを進めていきたいと考えている。そうすることによって、総合計画ができて完成ではなく、進めていく5年間、少しずつ変えながら若者やお年寄りの意見等いろいろな方の意見を聞いて福井市をつくっていくことで、帰ってこられる方も多いのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>効率化や持続可能に関して、県や市と仕事をさせてもらうことがあるが、県と市が同じような企画を立てていたということが多々ある。同じようなところを課題に思ってるので、同じことが企画として上がることはどうしても出てくると思う。</p> <p>それを知っていればこうしていた、それならばこちらの予算でできた等と思うことがある。特に、福井県と福井市はかぶりがちだと思うため、取組等の情報共有をもっとやっていただいて、発注される私達にもその情報が届くと全体として良い取り組みになるのではないかと考えている。</p> <p>市民としても、こういう取り組みがあるらしいよと調べると、市も県も取り組んでいて、どこに問合せると最終的に私の取り組みたいことにたどり着くのかと思うこともあるのでもう少し情報共有をし合い、さらに良くできないかなと思う。</p> <p>もうひとつ、先ほどから話が出ている、若者が帰ってきたくなくなるという部分で、今回の「第九次総合計画」の策定にあたって、福井市らしさや、ならではの言葉、取り組みなどが盛り込まれていると良いと思う。具体的なことはこれからからだと思うが、例えば、鯖江市だと成人式に眼鏡をプレゼントしているなど、その市でしかできないことがあると良いなと思っている。</p> <p>帰りたくなるやここが良いというのは、もちろんサービスの善し悪しやみんなが元気など様々な理由がある。私も移住してきた立場から思うと、ここでしか食べられないものがあるやここでしか会えない人がいるとか、福井市にしかない魅力というところをもう少し大きく打ち出していくことで、福井市に戻りたいと思うようになるのではないかなと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>1点目については私も感じる場所だが、そういった調整というところを文言としてここに配置させることはなかなか難しいか。</p>
<p>総合政策課長</p>	<p>文言として取り上げることは難しいかもしれないが、検討させていただく。</p> <p>事業によっては、県市の連絡会や県市で話し合いながらやっている。特に、駅周辺のまちづくりといったところは、話し合いながら県と市の分担を決めて進めているところである。</p> <p>それ以外のところになるとなかなか県と市の連絡というところがうまくいってないところもあるので、課題として承らせていただきたいと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>2つ目の若者の意見に関しては、三寺委員長にも総合計画審議会の委員に入っていたので、そういった視点をしっかり入れながらつくっていききたいと思う。また、こちらの方に予算をつける、実施計画の中でも若者が取り組めるような、そういったところをしっかりと反映していききたいと思う。</p> <p>1点目については、何らかの形で市民とつながりがあるようなもので調整ができればと思うので、ぜひ検討していただきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>2点目について、私と前田委員は、「まち」のセクションで議論している。確かに福井らしさというところが、見える状況になっているかという、文言等からはまだ感じないような内容なので、部会の方でも検討させていただきたいと思う。</p> <p>資料11ページの、一番冒頭に「複雑多様化する行政課題にスピーディーに対応していくため」と書いてあるが、よくある枕言葉なのかなという感じがする。この計画は令和9年度からということで、新幹線が開業して3年という、ある意味振り返りの時期にもなるのかなという気がしている。</p> <p>新幹線は、福井市の状況を大きく変えていると思う。現在は、初期の効果が出ている中で、これから徐々に継続的な効果に変わっていく。おそらく、にぎわいや人の流れといったことだけではなく、市民生活等にも予期していたもの、いなかったものも含めて様々な変化が起きてくるのではないかと思う。</p> <p>そういったことを考えると、複雑多様化する行政課題に対応していくのはこの計画をつくる段階じゃなく、つくってから適宜変化を見ていかなければいけないと思う。</p> <p>この内容を見ていると、対応することは書いてあるがどのように把握するかが書かれていないような感じがする。リアルタイムで起きていく変化を的確に掴むことが非常に大事だろうと思う。そこに対しては、おそらく企画部門が様々な情報を集めて、どのような変化が起きているのかを、各部署と共有して、それぞれの変化に対応していくための政策を、企画主導でやるのか、各部署が独自に行っていくのかはあると思うが、対応することについては、把握の部分も含めてしっかりとやっていかなければいけないのかなと思うため、そこを書き込んでいただくことがまず大事だと思う。</p> <p>もう1点は、先ほどの財政健全にも関わってくるが、資料11ページ③の持続可能な行財政運営のところ、もともとその健全化が議論されたのは、大雪の影響で基金が枯渇してしまったというきっかけがあったと思う。行財政運営の根本たるその基金のところの記述が抜け落ちてしまっているのかなという感じがする。</p> <p>例えば、収支均衡など、間接的にはそういったことが書かれていると思うが、基金のことをどのように捉えているのかが少し見えにくく、基金がこれから目標に向かって達成できるのかがなかなか危うい状況の中で、あえて後退させてしまっているような見方もできてしまうところがあるので、そこは明確に続ける必要があると思う。市税の収納率等も、もちろん大事だが、やはり一番大事なものは基金だろうと私は思っている。</p> <p>3点目は、小さなことだが、資料11ページ①の1つ目のところに「有能な人材の確保」と書いてあるが、確保とはどうしても採用という捉え方をされてしまいがちで、今ある職員が有能であることはもちろん間違いないと思うので、そこはあえて言わないのかそれとも、人材育成ということも含めてのことなのかが、何となく、悪い見方をすると、なんだか有能な人材を確保することが、採用して確保するみたいな書き方になっているような気がする、注意が必要かと思う。</p>
<p>総合政策課長</p>	<p>変化への対応については、職員の提案制度を設けているので、そちらの方でしっかり所属</p>

	<p>の状況を把握しながら、的確に対応していきたいと考えている。</p> <p>2つ目の財政調整基金については、ここに載せるかどうかは議論しないといけないと思うが、これと同じ時期に、「福井市行財政改革指針」がスタートする。そちらに載せるかは役所内で検討させていただきたい。</p>
職員課長	<p>採用による確保だけじゃないということはおっしゃるとおりだと思っている。人材育成で維持をしていくというようなことはもちろん必要なことなので、よりよい文言についてはまた検討させていただきたい。</p>
委員	<p>最初にいただいたコメントに関して、各部署から上がってくる事業だとどうしても各部署の使命に即したのしか出てこないと思う。やはり新幹線の効果は幅広い側面に及ぶため、その全体像をしっかりと把握した上で、どのような政策が必要なのかを考えていく必要があると思う。各部署からの提案を総合するだけでは、全体像がゆがんでしまう可能性があるのではないかと思う。</p>
総合政策課長	<p>新幹線の効果について、例えば、人の流れについてまちなかでは流れがあるが、郊外にはなかなか向かっていないといった意見もあり、うまく商工業に結びついているかといったところもある。そこは、全体的に把握し、様々な数値を見ながら判断して、施策に反映させていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>何か文言で反映、もしくは、細かいところは指針のところでの反映なのかはわからないが、そちらの方も検討をお願いします。</p>
総合政策課長	<p>こちらの方で反映できなくても、各部会のほうに持ち上げ、新幹線ですと「まち」の部会になるので、そちらの方でまた議論していただくことになるかもしれない。いただいた意見は、すべての部会で共有したいと思っている。</p>
委員	<p>リアルタイムで変わっていくため、計画を策定した後、実行していく段階でも変化を見据えていく必要があると思う。もちろん部会だけではなく、行政の中でもしっかりと対応していただければと思う。</p>
委員長	<p>行政職員がそういった情報をきちんと収集して対応しているかどうかという、体制をきちんと整えるところについてぜひ検討をお願いします。</p>
副委員長	<p>「有能な人材の確保と適材適所の職員配置を行います」というところについて、誰がどのように適材適所と見極めるのか。先ほど話に出たように、職員のこれをやりたくて市役所に入庁したという意欲をどのように育成していくのか。様々な市民がいる中で、市民サービスは個々に違う。そのあたりの対応ができ、柔軟に頭の回転ができる、そして、職員がウェルビーイングを感じられるというところに持っていくことが非常に大切だと思う。</p> <p>また、市の職員はこのようなことをしているということを、広報紙などで取り上げ、課の紹介やいきいきと仕事をしていることが市民にわかるようにしていただけると、市の職員になってみようというきっかけにもなるかと思う。もっと広域的に、福井市だけでなく、鯖江市や坂井市との意見交換の場があっても良いのではないかと。</p>
委員長	<p>本当に職員がいきいきと仕事をされているのか、市民がわからないのはもったいない。市民にわかりやすいサービスを、職員からもアピールできるような体制をとってほしい。</p> <p>モチベーションを高める市民との関わりについては、情報発信も含め、広報でその部分を検討いただきたいということなので、「多様な広報媒体において、市民が分かりやすい」という部分で、発信するだけではなくフィードバックするような、直接対面で伝わるような何かを検討いただきたいということだと思う。文言についてのコメントではないかもしれないが、その先の部分で検討をお願いしたい。</p>

<p>委員長 総合政策課長</p>	<p>(3) その他</p> <p>それでは、(3) その他について事務局の方からどうぞ。</p> <p>皆様にひとつお願いがある。本委員会は、2年間を委嘱期間としており、今年度をもって、当初お願いしていた期限を迎える。</p> <p>しかし、令和8年度は、総合計画を進めるための指針となる「福井市行財政改革指針」の策定の年度になる。本日、皆様からいただいた「総合計画を推進するために」が、指針の取り組み項目となっている。</p> <p>ついては、業務多忙な中でのお願いは恐縮だが、可能な限り、令和8年から9年度も引き続き委員を継続いただきたい。特段の事情により、継続不可という場合は、後日改めて担当からご連絡させていただく際にお知らせいただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、これをもって協議は終わりたいと思う。</p> <p style="text-align: right;">(17:00 終了)</p>